

※このお便りは森林セラピー基地グリーンピア八女の森の案内人の会がお届けする四季折々のお便りです。

グリーンピア八女の春

．．．． それは一年中で一番輝く

春、それはグリーンピア八女の木々が花をつけ柔らかい緑に包まれる、賑やかで生命力あふれる瞬間です。今、桜が満開です。桜の後はずつじ、その後、シャクナゲ、そして紫陽花と折々の賑わいを見せてくれます。一歩セラピーロードに踏み込むとコブシや山藤、山桜、ヒメオドリコソウ、ハルリンドウなどがひっそりとしかし威厳に満ちた佇まいを見せてくれます。ミツバツツジのピンクも一際目をひくものがあります。

小鳥も恋の季節を迎え、ウグイスや相思鳥などのさえずりが賑やかです。ただ、今年は何故か鳥が少なく、気になります。



ミツバツツジの群生

主に尾根や岩場、里山の雑木林などに生育する。花が終わってから枝先に出て来る葉が三枚なのでこの名がついた。



湖畔の桜

第2ロード・山中の池、第3ロード・善蔵池のコースにも山桜が見られます。水面に映る桜 どんなでしょう !!!



ハナイカダ(花筏)

第3ロードに花筏が雌雄二本並んで見られます。葉の中央に花が咲き秋には黒い実になります。雄株は多数の雄花がつき、雌株は一つの雌花しかつきません。

「今回は春のお便り」です。

相思鳥 (朝鮮ウグイス)

東日本大震災、福島第一原発の事故から一年が経過し、今も多くの人々が厳しい生活を強いられています。一日も早い復興をお祈りします。

今回は、「朝鮮ウグイス」とも呼ばれる「ソウシチョウ」(相思鳥)を紹介します。

少し離れた木と木から雌雄が互いに鳴き交わす様子から相思鳥との名がつけられたと言われます。

もともとインド北部や中国南部、ベトナム北部などに自然分布し、日本やハワイで見られるのは、中華街とかで飼われていたものが放されて野生化したものとも言われています。ササ類の繁茂する標高1000m以下の広葉樹林帯に生息します。特定外来生物に指定され、営巣場所が競合するウグイスやオオルリが駆逐される危険があり、日本の侵略的外来種ワースト100選定種になっています。雑食性で姿が美しく鳴き声が良いため古くから飼われてきましたが、今は愛玩・観賞目的での飼育は禁じられています。



“森林セラピー体験ツアー”

・・・ シイタケ菌打ち体験 ”

3月17日、福岡県森林セラピー基地ネットワーク会議の合同モニターツアーとして、グリーンピア八女では、昨年につき、セラピー体験の後に椎茸の菌打ちを体験して頂くことを計画しました。

日 程 10:00～12:00 森林セラピー
12:00～13:00 昼食
13:00～15:00 椎茸菌打ち体験

参加費 大人 1000円、 子供 500円

定 員 30名

当日は、曇天でセラピーの終了直前、小雨となった。第3ロード・善蔵池周回コースはまだ若葉はなく静かなたたずまいであった。

参加者の皆様はそれぞれに癒しの一時を持って頂いた。午後行われた菌打ち体験は、大人も子供も初めての体験で、ドリルで穴あけし、菌の付いた杭を等間隔に打っていった。出来上がったホダ木は預けて帰る人、持って帰る人それぞれが楽しい体験となったのでは・・・



黒木の大藤

昭和3年に指定された国の天然記念物で、スサノオ神社の境内に1395年(応永2年)、後征西將軍良成親王が植栽せられたものと伝えられています。

開花期は4月下旬から5月上旬で、満開期は幾千万の花房が0.5～1.5mに伸び見事な景観を示します。

今年も「大藤まつり」が4月18日(水曜日)～5月初旬まで行われ、5月6日までは夜間19～22時の間、ライトアップされます。



【黒木町探訪】

つるぎ ふち 民話・・・ 「劔が淵」 その2

都に上った殿さま黒木助能は、お勤めのかたわら黒木にいる奥方春日局を偲び、笛を吹いて寂さを紛らしていました。ある日、たまたま助能の奏でる笛の音を聞いたお公家様が帝に大変な笛の名手がいると告げました。

二年目の正月、助能は舞楽の催し(曲や舞いを皆で楽しむ会)で帝の前で笛を吹くよう頼まれました。助能は心をこめて精一杯横笛を吹きました。その音色のあまりの美しさに帝を始め多くの公家達が感嘆の声をあげました。帝は大層お喜びになられご褒美に劔と、「調」という姓を与えました。さらに「待宵小侍従」という美しい女官を与えました。その女官は好きなお公家様との間に出来た子供がお腹の中にいたのですが、帝の命には逆らえず従うことになりました。 …… 次号につづく



劔が淵と猫尾城のあった城山



本丸跡にある彦山神社